

子宮頸がんのない未来へ、「子宮の日」合同記者発表

30歳以上の意識調査で見えた検診の障壁と「5年に1回」のHPV検査単独法がもたらす可能性

● 「子宮頸がんを予防する日（子宮の日）」記者発表会のご案内

日本国内の子宮頸がん啓発団体の中で最も歴史のある団体、特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会と診断薬・機器メーカーのロシュ・ダイアグノスティックス株式会社（以下、ロシュ）は、子宮頸がんの予防と検診の重要性を広く周知するため、「子宮の日（4月9日）」を前に4月8日（水）に記者発表会を開催いたします。本会では、ロシュが全国の30歳～60歳の女性を対象に実施した調査で明らかになった、子宮頸がん検診を近年受診していない層が抱える心理的・物理的障壁について、発表いたします。また、2024年度から一部自治体で導入が始まった「HPV検査単独法（HPV検査）」が、現代女性の受診意向を向上させる可能性について、調査結果に基づき提示いたします。さらに、本分野の第一人者である当法人理事長の今野良より、調査結果から見える課題と子宮頸がん予防の重要性について解説いたします。つきましては、報道関係の皆様におかれましても、本記者会見へのご参加を賜りますようお願い申し上げます。

● 記者発表会概要

日時：2026年4月8日（水）13:00～14:00（プレゼン約40分・質疑応答約20分）

場所：厚生労働省記者室

共催：特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

● プログラム（予定）

1. 開会の挨拶（特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会）（5分）
2. ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 会社紹介（5分）
3. 子宮頸がん検診に関する意識調査結果（15分）
 - 受診を阻む要因について
 - 「5年に1回」のHPV検査が未受診層の受診意向に与える可能性
 - 受診を促す最大のきっかけ
4. 専門家による考察（10分）

今野良 自治医科大学名誉教授 特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会理事長

 - 調査結果から見える課題と今後の取り組み
 - 子宮頸がん予防の重要性（HPVワクチン接種、検診の必要性）
5. 特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会より活動紹介（5分）

2009年より活動する啓発活動「LOVE49全国アクション2026（厚生労働省後援）」の概要
子宮頸がん予防検定実施のご案内
6. 質疑応答（約20分）
7. 閉会の挨拶

● 参加方法・お問い合わせ先

誠に恐れ入りますが、加盟社以外の方は厚生労働記者会の幹事社まで参加希望の旨をご連絡いただきますようお願い申し上げます。

この件に関する問合せ先：080-1213-9537 watanabe@orangeclover.org 担当：ワタナベ

特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会について

<https://love49.org/>

弊会は 2005 年より活動を続ける予防出来る「子宮頸がん」の予防・啓発団体です。子宮頸がんは HPV ワクチンと精度の高い HPV 検診で征圧が可能ながんであることを、全国民に知って頂くよう活動を続けております。4 月 9 日を「子宮頸がんを予防する日（子宮の日）」として全国の細胞検査士を始めとする 1,500 名を越えるボランティアと共に約 60,000 部の予防啓発小冊子などを配布しています。また、国内の自治体検診や HPV ワクチンの接種状況など経年的に調査を行い専門家と共に改善点を提言しています。

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社について

ロシュは、1896 年にスイスのバーゼルで創業した、150 以上の国や地域に拠点を持つ世界最大級のヘルスケアカンパニーです。医薬品と診断薬を併せ持ち、医療従事者や患者さんの最適な治療選択や意思決定をサポートしています。ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社は、ロシュ診断薬事業部門の日本法人です。検査を通じて自分自身の今を知ること、人生において自分らしい決断ができる、という信念のもと、革新的な診断ソリューションの提供を通して、予防・診断・治療・予後のすべてのステージで人々に寄り添い続けています。2026 年 3 月現在で全国 8 都市にオフィスを有し、体外診断用医薬品・医療機器事業、研究用試薬・機器事業などを幅広い疾患領域で展開しています。詳細はホームページ <http://www.roche-diagnostics.jp> をご覧ください。